



リーダーの資質

福田前首相の突然の辞職や星野ジャパンのオリンピックでの惨敗で、リーダーの資質とは何かが問われている。

今までにも、多くの論客が、事ある度に、リーダーの資質について意見を述べ、多くの事柄を指摘してきた。

曰く、教養・知性・気概・使命感・決断・実行力・洞察力・構想力・交渉力などなど。

ところで、私自身の体験からすれば、良き指導者たるためには、知識、経験、人柄などの資質もさることながら、何よりも大切なことは、「肉体的、精神的な耐久力」を身に付けなければならないということである。

「肉体的耐久力」とは、いうまでもなく「健康」と「体力」である。

指導者には、平常から、まさかの時の決断と実行のために、長時間にわたる準備と勉強が求められるが、只今の大量情報社会では、その上に多くの行事への出席や、挨拶、講演、更には各地への出張など数多くの雑事をこなさなければならない。

そのためには、日々の多忙に堪えうる体力を養うため平素の健康管理が欠かせない。

テレビなどに映される指導者の顔、姿が二日酔いか、過労か、心労か、或いは隠れた病気からかのかはうかがい知れないが、疲れ切った様子に見えることがままあるが、そうした不健全さ、ひ弱さは、指導力に不安感を抱かせ、組織の活力をそぎ前進を妨げることとなる。

健康と体力に自信を持てなくなったならば、指導者はきっぱりとその職を辞すべきである。

安倍元首相の場合は、まさにそうしたケースだったのであろう。

また、指導者は、内外に多くの難問題を抱える宿命にあるから、常にその重圧に堪えるだけの強靱な精神力、忍耐力を持たなければならない。

先人は「憂きことのなほこの上に積もれかし、限りある身の力試さん」と詠んだが、そうした決意と実践が求められる。

福田前首相の場合には、どう見ても、そうした精神的耐久力に欠けていたと見られても仕方がない。

それが、青年期において社会の中でもまれることの少ない「二世」の悲哀なのかも知れない。

また指導者は、本来「孤独」なものである。それだけに、自らの方針の実現をサポートしてくれる良き同志、部下に恵まれることが必要である。

「孤独」なままでは情報不足に陥り、折角の名方針も判断ミスから事態に対応できない

こととなる。

私の体験でも、自らの信ずる所を主張するために多くの人々の意見、主張と抵触しながら会議などの場で発言を続けていた折に、信頼していた部下の一人から「大局的に見れば、その主張を続けることを断念し、矛を収めるべきである」と進言されたことがあった。

自らの主張は「正しい」との確信はあったが、諸般の事情をふまえ、かつ私の将来をおもんばかっての忠告には思わず涙したものである。

そのような信じ合える「仲間」「同志」を得ることは、組織のリーダーにとって不可欠な資質であると思う。

最後に指摘しておきたいことは、リーダーにとっては自らの率いる組織の「団結」と「和」を図ることが最も大切な資質であり、また責務であるということである。

星野ジャパンには、(すでに識者が指摘しているように) 団結と和が欠けており、星野監督の我が儘な選手起用によっていよいよチームの和と団結力が弱まり盛り上がりがないままに無用な敗戦を喫してしまった。

指導者の示す「方針」と「指揮」の内容に組織のメンバーの「納得」が得られていなければ組織の力は発揮されないままに終わる。星野ジャパンはそのことを如実に示した。

以上、○「肉体的、精神的耐久力」○「孤独」を補う同志、部下の存在○「団結」と「和」の醸成力——の三つが組織のリーダーに求められる資質であるとするのが、私の体験的リーダー像である。